

刊夕日八十月一十



定額一萬五千元 金五拾銭 郵費五拾銭  
廣告料五號十二行 一行金五拾銭  
日曜祭日の翌日休刊  
発行所 常磐毎日新聞社  
印刷所 常磐毎日新聞社  
電話 六三〇  
郵便 常磐毎日新聞社

# 救護法に就て [一]

平町共済委員 辯護士 門傳清吾

昭和七年一月から實施せらるる救護法に就て自分の知得せる範圍に於て一般人に對し説述することは決して徒事ではないと信じ茲に之を述べることにする。

元來救護法の制定せらるるに至つた原因は既に新聞紙上に於て報導せられたる如く全國の共済委員等が一致團結して社會事業は公共全体の福利を増進し安寧秩序を維持せんことを目的として社會の缺陷現象を救濟する貴重なる事業である。

就中其缺陷中社會の貧困者を完全に根本的に救濟することは思想界の悪化を防止し健全なる社會的發展を實現する所以である。然るに從來の様に姑息な方法にては到底其目的達成を期することが不能であるから法律を制定して是等の理想實現の可能性を確實にせなければならぬとして中央政府に上申したる處政府も其重要性を認め幾多の困難を排して制定せらるるに至つたものである。以下救護法の分類に從て説明することにす。

## 第一章 被救護者

救護法の對照範圍即ち被救護者は如何なる範圍のものかに關しては或一部の新聞社又は政黨の唱導する様に一般社會の貧困者は全部救護を受けることが出来るものゝ如く解することは大なる誤謬である。

救護法は其第一條第二條に於て救護すべき者の範圍を限定して居るのである。即ち概括的に言へば原則として労働、能力ある者は救濟せず換言すれば労働、能力を有せざる者にして且つ貧困で生活することの不能な者に限り救濟することになつて居る。

## 童話 逃げた猿 [三]

矢野泰助

ある朝、茂が南京豆を懐にして、家を出ますと、途中で、同級の由太郎に逢ひました。「茂ちゃん、明神様の猿が逃げたつて。」  
「由太郎がいはました。」  
「えつ、ほんとう？」

「ほんとうだとも、家へくる牛乳屋さんが云つたよ。そして、子供に二三人、かみついたつて。」  
「さうか。まだつかまらなからうか。」  
「まだだらう。あぶなくてつかまらぬことも、どうすることも出来ないのだつて。」  
「どつちへ行つたの。とにかく、明神様へ行つて見よう。」

茂は、もしや、猿が歸つて來てはゐないかと思はれて、由太郎と、いそいで檻のところへ來て見ました。がやつぱり二匹とも居りませんでした。そして、檻の金網が破れて居るのを見ました。

「猿は、どつちの方へ行つたか知らない？」茂は、近くで遊んで居た子守に聞きました。  
「本町の方へ行つたつてよ二匹で、角屋の店の林檎をさらつて。それから、たが公が、橋本屋の店先にあつた女の子のかぶる赤い帽子をとつて、かぶつて行つてしまつたつて。」

と、子守は話しました。  
「たが公は、もと、そんなものをかぶつたことがあるんだね。きつと、由ちゃんまた學校は大丈夫だから、本町の方へ行つて見ないか。」  
「でも、怪我をしてはつま

# 外科

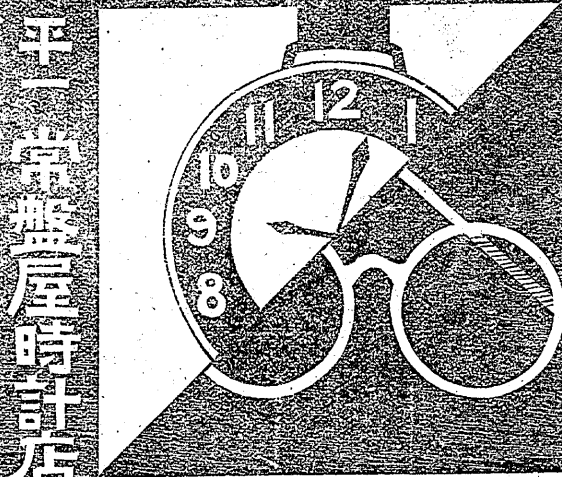
専門線 X

上田外科醫院

平町 南町  
電話二一九番

耳鼻咽喉科専門  
大和田醫院  
平町南町  
電話一七〇

# 正確な時計



平一常盤屋時計店

好適の眼鏡

お客様本位の……

# 市原醫院

平町田町(電話一一四番)

内科、小兒科 市原卯太郎  
外科一般、婦人科 市原陸郎  
外科、梅毒、淋毒 市原三三男

入院隨時

# 山は富士、保險は三井

寄らば大木の基

貯蓄と保險を兼ねた最も有利な保險  
保險は文化の生存競争の基礎  
保險加入すれば明日より明るい道を照す  
保險は一家團圓の基礎  
保險は老へ行く先の御樂みに  
老へて泣くも笑ふもふだんの心掛け一つ  
保險加入の有無は自己信用の尺度  
皆さん今日と言はず明日と言はず善は急げの諺あり奮つて御加入の程をお勧め致します。

三井生命代理店主幹 佐藤 永春  
全 專囑社員 福島 寛利  
平町紺屋町二

# 見よ！聴け！

海軍省御後援撮影

# 對支局實見談と

上海漢口 長沙方面 排日及戰況實寫 畫映

實見撮影者——屋代南洋氏

# 間日三り日六十

千恵藏 男達ばかり  
淺岡 ジャンバルジャン  
八雲 肉體の暴風

後援 常磐城新聞社  
主催 時事新報社 讀賣新聞社 専賣磐城通信社  
□入場料十銭 □ 平 館

セメント 磐城セメント株式會社  
壁用材料  
コーンタール 代理店 西村屋藥舗  
ペンキ塗料  
板ガラス 平町二丁目電三

### 若松氏への戸數割賦課問題

## 愈よあす解決されん

### 双方相譲らざる論争に 赤井村會未曾有の混亂

去る四日開會の赤井村々會において村長問題から一轉して若松美三氏に對する戸數割賦課の當否が問題となり村長問題よりも之が先決問題となつて以來約半ヶ月の間端なく之を繞つて未曾有の混亂状態となりその間警前縣議を初め民政黨幹部が種々斡旋解決に努めたが反若松派の態度が意外に強硬な爲め遂に調停の余地なく愈々明十九日再會の村會に於ける決戦投票にて愈々解決されるものとみられてゐるが双方の主張する所を探聞するに

若松氏が假令平町に居住すると雖も轉籍寄留等の事實なき限り同村内に家屋並に不動産を有し生活の資の一端と爲せる以上村民の資格は充分にあり従つて之に戸數割を賦課するは當然にして若松氏もこの義務を是認し從來之を果してきたものである故今回も同様賦課すべしとなしてゐるが一方賦課するは違法であるとなす者の論據は

第二十一條に依り 若松氏は事實大正十二年以來一家平町に居住し平町を以て生活の本據地となしてゐる以上之に村負擔の分任を強いるのは不法且不當であり又單に轉籍寄留等の届出を以て住民の資格條件は決するに非ず從來賦課し來つたのは明かに村當局の認識不

足によるもので今回は法の尊嚴の爲め斷然賦課反對を主張する

といふに及ぶが之が左右決定と相俟つて同村々長問題も自ら

決定されるべく赤井村における草野三郎氏擁立派と若松氏擁立派の争ひは非常な興味を以てみられてゐる

## 六對五にて

### 反若松派の勝利か

草野田久兩派の提携

別項—明十九日の赤井村々會の若松美三氏に對する戸數割賦課問題は俄然各方面から興味を持つて見られるに至つたが同村における村長候補者が草野、田久兩氏の争ひとなつた際に一部有志が突如同氏を擔ぎ出した爲め事態は益々紛糾するに至つたもので草野、田久兩派は一先づ提携し若松氏の戸數割賦課問題を先決して同氏の村長就任を不可能ならしめんとする模様で結局六對五にて反若松派の勝利に歸するものと觀られてゐる

## 米價落付く

### 新米走り迄 現在の儘か

石城販賣利用組合の大浦農業倉庫で十三日行つた定會米穀共同販賣は一俵の出荷もなく産米四等相場は一石十六圓三十五錢で一週間來同價相場を持続して居たが來る廿八日頃一般農家で收納作業を終ると一齊に出る本年度走米の爲め幾分高値を生ずる迄は現在の儘で續くものと見られ居る

## 今日話

米國で有名な精神病學者ラッセル氏は、ペンシルヴァニア州ドレイスタウの別荘で、身體を蜂の巢のやうに銃弾で射たれて、無慘な姿で死んでゐました。勿論……係官が飛んできて嚴重に取調べて見ました、ところが奇怪にも他殺でも自殺でもなかつた——と言ふのは、博士は二三年前に盜賊が自分を狙つてゐると感付いて、重要物件を入れて置く押入れに、博士獨特の智慧を絞つて散弾銃を仕掛けて置いたのを、近頃忘れてこの押入れの戸を、ウツカリと開けたので、瞬間に散弾が飛び出して博士は自分のワナに引掛つて非業の最期を遂げたのでした

## 押すな

### 押すな、押すな、の、ルンペン団体

平署目がけて續々來る 署員は閉口極む

寒さが愈々加つたので南國の太陽を追ふて流れるルンペン群が北海道方面から連日平署人事相談所へ押し掛けるが昨十七日の如きは

一夜に五人のルンペンが一時に御入來其内の二人組は宮城縣玉造郡西尾崎町南澤の久四郎三男佐々木未藏(三)と同縣岩沼町宇瀧木魚夫相澤重次郎(三)の兩名いづれも北海道を引揚げて東京へ出向く途中で旅費に窮したとの事であるが此の兩名と入れ替つての

三人組は岡山縣朝日郡五色町漁夫三島重八(二)安積郡喜田村字野内遠林建次郎(三)秋田縣山古郡神村字大田生れ小田福三郎(三)で是れ又東京方面で労働希望と申立て旅費を給さぬ間

## 押すな

### 押すな、押すな、の、ルンペン団体

平署目がけて續々來る 署員は閉口極む

## 廿二日選定

陪審員候補 三町議立會

平町役場では來る廿二日午前十時より町議事堂に於いて陪審員候補者選定の爲め町内有資格者五百十名のうちより廿六名の候補者を抽籤に依つて選定する事に決定し立會人として石山馬目關内の三町議を選定した

競賣執行 延期嘆願

山間部民協議中

來月廿日平町を皮切りに愈々五、六年度縣稅の滞納處

## 延期嘆願

### 延期嘆願

山間部民協議中

來月廿日平町を皮切りに愈々五、六年度縣稅の滞納處

## 分が執行されるが石城郡山

間部地方における農家の經濟状態は何れも極度の逼迫を告げてゐる上今回の處分によつて農耕馬三十余頭が競賣される爲め全く弱り切つてゐるが農馬の如き農民の生命且つ財産が今更競賣されては浮ぶ潔がなくなるばかり川前、田人、上遠野方部では競賣執行期間延期嘆願に關し寄り／＼協議中である

## みのり會

座談會は 座談會は 座談會は

先般の例會で會稱をみのり會と改めたが今後の方針等を協議する爲め來る廿二日午後一時半より日本基督教會に於て幹部會を開くと

## 高野家の不幸

平町 高野家の不幸

田町高野分店主高野卯之吉氏の長男昌久君は今朝五時突然に死去したが今晚十時火葬に附し明十九日午後三時自宅出官性源寺に於いて佛式を以て執行すると因に昌久君は享年十六才、磐中三年に通學中で成績も良く將來を樂しんでゐた父君の嘆きは一方ならざるものである

## 参詣者

参詣者 参詣者

關井井嶽藥師の参詣者は家内安全と無病息災と安産祈願にさまつたやうなものだつたが近頃は武運長久といふのが一枚加はつたといふ、これも日支事變が齎らした一現象だが

## 参詣者

参詣者 参詣者

關井井嶽藥師の参詣者は家内安全と無病息災と安産祈願にさまつたやうなものだつたが近頃は武運長久といふのが一枚加はつたといふ、これも日支事變が齎らした一現象だが

## 参詣者

参詣者 参詣者

關井井嶽藥師の参詣者は家内安全と無病息災と安産祈願にさまつたやうなものだつたが近頃は武運長久といふのが一枚加はつたといふ、これも日支事變が齎らした一現象だが

## A 参詣者

A 参詣者 「どうか息子の武運を護らせ給へ」

B 参詣者 「彼氏が無事に歸りますやうに、神様私一生のお願ひですワ」

## 平職業紹介所便り

平職業紹介所便り

▲求人部

- △女中 四十才以下、月五圓位(平町元教員)
- △飲食店女中 廿五才以下、月四圓位外チップ(白銀町)
- △外交員 五十才以下、歩合給(五丁目漆器店)
- △農業 五十才以下、通勤日給六十錢乃至八十錢(柳町)
- ▲求職部
- △雜役店員 十八才、高卒 給料面談(平町)
- △十五、廿二才、無學、朝鮮人(平町)
- △給仕 十七才、高卒(立町)

## 往來

往來

- △山崎與三郎氏 十七日午後六時十五分歸平
- △木村代議士 同右
- △馬目雅治氏 十八日午前五時四十分仙臺行
- △齊藤敏實氏 同時原町行

## 三井

三井

三井

## 手切

手切

手切

## 商品

商品

商品

三井

三井

# 本郡出身五勇士 今夜滿洲へ

歡呼の聲に送られて

## 若松驛を出發

今十八日午後六時四十七分  
郡山驛を歡呼の聲に送られ  
て出發し帝國の權益擁護と  
東亞の平和保全の爲めに渡  
滿する若松留守隊兵のうち  
石城郡出身者は左の五名で  
ある

## 慰問品

三坂澤渡で

石住村出身 小澤常彦  
江名町出身 赤坂七五郎  
大野村出身 瀧谷鐵次郎

石城郡澤渡三坂組合では全  
村各戸毎に慰問品を纏め同村  
出身滿洲駐在兵の八名に送  
附することになつたが金額  
は二圓見當であると

## 名譽の負傷兵へ 電報にてお見舞

石城郡入遠野村では十四日  
嫩江の激戦において名譽の  
負傷した同村出身歩廿九聯  
隊第一中隊折笠勇太郎君に  
對し今十八日見舞の電報を  
發した

石城郡永戸村出身滿洲駐在  
兵機關銃隊二等卒水野勇輔  
君は十四日嫩江の激戦にお  
いて遂に名譽の負傷した爲  
め永戸村では明十九日村會  
を召集し之が慰問方法を協  
議すると

## 石城郷友會

### 戰死者弔靈

在滿兵には

### 慰問品發送

若松市の石城郡郷友會は廿  
一日の慰靈祭に同郡出身若

政君の兩戰死者弔靈なら  
びに花輪を捧げること、更  
に同郡出身の滿洲駐劄兵百  
五名に對して現金五十錢づ  
つならびに慰問袋を贈るこ  
とになつた

## 罰金四十圓

急行列車に衝突の  
トラック運轉手

本年七月二十日宮城縣柴田  
郡大河原町字中島地内東北  
本線踏切を横断せんとして  
急行列車に衝突した貨物自  
動車石城郡内郷村字御臺境  
當時双葉郡富岡町鈴木自動  
車運轉手久野朝次(三)に  
關する事件は平區裁判所に  
て審理中であつたが當時朝  
次の貨物自動車には小林龜  
重及同彌吉の二名が乗合し  
何れも二週間或は三週間の  
重傷を負つたもので十六日  
略式命令を以て罰金四十圓  
を言渡された

## 自轉車を飛ばして 十六歳の少年家出

小高から湯本まで  
更に無斷で上京

平町月見町高木義(九)は十  
六日所用の爲め湯本町三函  
地内を通行中路傍に中古自  
轉車が置きに居たが右

のを發見其筋へ届けたが右  
は相馬郡小高町南小高川村  
松太郎長男雄夫(九)が本月  
一日實家を無斷で逃出し上  
京せんと自家の自轉車を飛  
ばして湯本町迄走せ來り同  
驛より汽車にて上京したも  
のである事實家より平署へ

## 時計横取り

持主が説諭願ひ

石城郡好間村下好間の満山  
爲藏(三)は去月中同村上好  
間字南町田の中村平吉より  
七圓餘の借金が有つたが思  
ふ様返金が出來ぬ爲時價十

五圓の腕時計を預けて置い  
た處同村上好間字沼田の鈴  
木友太郎(三)は本月十日中  
村方に至り満山の代理人と  
稱し七圓を支拂ひ時計を受  
取つて行つたので満山は記  
念の時計であるから返して  
貰ひたいと鈴木に申込んだ  
が斷られた爲め平署へ説諭  
願を出して來た

## 無免許牛馬商

石城  
郡上遠野村大字上根本字折  
松折笠吉次郎(五)は上遠野  
駒驛物大館真一外二名より  
馬三頭を購入同村酒井吉次  
郎外二名へ無免許にて轉賣  
した爲め牛馬商取締違反と

## 隣縣助川の盜賊 小名濱で捕はる

前科六犯の強か者

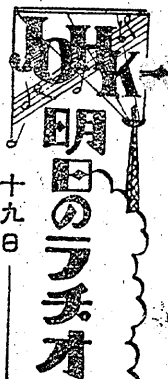
去る十三日夜十一時頃茨城  
縣助川驛前某呉服店に忍入  
り衣類三十反を窃取逃走し  
た犯人に就き平署では管内  
各地に嚴重な警戒網を張つ  
て居た處十七日朝石城郡小  
名濱町明神町木賃宿小松作  
太郎方に宿泊中の土工風の  
男を平署員が取押へると人

## 旅費なかりにも 見よ、この母あり

惜しや一足違ひで

折角の送金間に合はず

既報本月十日平署人事相談  
所へ旅費の貸與を願出た北  
海道夕張郡夕張町生れ勝間  
清之進(三)は北海道の實家  
へ旅費を送金する様打電中  
であつたが一向送金が無か



## 明日のラジオ

十九日  
報豫氣天  
今晩も明日も北  
西の風強く晴れ  
たり曇つたり氣  
温は急に低下す  
る

## 今晩の部

- 後六、〇〇 お話「ヒンデン  
ブルグ大統領」老川茂信  
後六、三〇 英語講座 村  
岡博
- 後七、三〇 講演「狩獵と  
鳥類」熊谷三郎
- 後八、〇〇 放送舞臺劇  
「時雨の炬燵」中村鴈次郎  
尾上梅幸一座
- 後九、一〇 端唄「イ空ほ

## 明日の部

- 前九、一〇 料理献立  
前一〇、三〇 家庭講座  
「盆裁の冬の手當」(三)  
平松諒三
- 後〇、〇五 二絃樂「深山  
の旅」他二曲藤倉蘆水他

## 氣早な女房

何處へ逃げた

石城郡内郷村大字宮字平太  
郎坑夫遠藤利勝(四)の妻安  
積郡日和田町生れタキノ

## 平町人事

回死 亡

△村木町三三 渡邊敬造(二四)

## 長男昌久儀病氣中の處 藥石効なく本日午前五 時死去仕候間此段乍略 儀以紙上御通知申上候

追而葬送の儀は今晚十時茶毘に附し明十九  
日午後三時自宅出棺性源寺に於て佛式を以  
つて執行仕候

昭和六年十一月十八日

平町 田町

高野卯之吉

# 小説 七色船

(八十八)

渡邊 默禪 作  
布施平八郎 畫

【載轉禁】

意氣地 (13)

男の前に蹲んでついと、その手を自分の肩に引かけた。そうして力の限りヒョロ／＼と歩き出した。源之助の体は宙に浮いて、ずる／＼と地に曳き摺られた、が、五間も行かぬ中に彼女は肩の重さに堪へ兼ねてへた／＼と膝を折つた。

「う、う、打棄つとくれ、打棄つとくれ、お、俺はどうなつたとして構はないから……」  
「……ヨ、歌俺をこゝへ打棄つて構わず去つてくれ」  
源之助は泣き聲を上げた  
「そんな弱い音を吹くもんじゃないわよ。男の癖に、何だい。しつかりしなさいよ。」

歌治は呼吸を切らしながら、たしなめつけた、そうして歯切りをして必死の力を足に籠め再び男を引摺つて七八間も行つたかと思ふとまたへた／＼になつて其處へ手を付いて  
「残念ね江、ア、口惜しいでしょう」  
彼女は泣き出した様な心持ちで男を顧へつた。こんな無理な事をして如何なるものかと云い知れぬ悲しみが湧いて出て額にそそ

げ立つた、髪の下から、玉なす冷い汗と涙とが一つらになつて落ちたのであつた。かくして虫の爬うやうに、よぢりよぢり坂道を上つたりして漸つとの事で谷戸坂を下りかけた、時に、鉛色に光る夜の海が見え初めた



「あら、あそこに、提灯の灯が見るわ、仲屋さんじゃないか知ら、どうもそろそろしい」  
彼女の心は跳つた。急いで坂を下り切つた谷戸橋の袂に来ると、それは果して夜稼の俵であつた

「もし仲屋さんちいと、ちよいと」  
彼女は五六間前から燥いた聲で呼びかけた  
と俵夫は小股走りに傍へ寄つて来た。  
「へい、へい、どちらへ」  
「あのこの先に、どつつか自動車屋さんがあつたでしょう」  
「え、御座いますとも、いくらでも御座います」  
「じゃあね、其處まで送つてくたさい。自動車と乗り換へる人だから」  
歌治は源之助の腕をしつかりと抑へて堀川端の柳の

幹へ寄りかゝらせながらはツはツと喘む息を整へて言つた、  
「へえ、畏まりました」  
と車夫は答へたが異様な二人の姿を見て胡亂らしく目をきよ／＼させた、  
「お二人さんですか、生憎一臺きりつさ、取りませで

すが……」  
「この方だけ乗せて頂だいな、私は歩いて行くからいゝわ」  
「左様でございますか、お酒を召し上がつてらっしゃるんで……」  
「酔ばらぬやありませんよ」  
歌治は思々しうに言つて  
「少しね体を痛めてるの、どうぞ氣をつけてやつて下さいな、静かにねえ」  
「あ、御病人ですか。へえ、畏まりました。」  
小戻りして俵を持つて来たさうして轆を寄せて源之助の体を受取つた時に、歌治は重荷を卸したやうにほつと思つた  
と思ふ瞬間、べたりと地上に膝を落した  
「お、苦しい、あ、痛い……」

と胸を押へて跳き出した車夫に扶けられて今にも幌の中に天窓を突き入れた源之助は、その聲に驚いた。

**梅毒**

淋病 皮膚病 婦人病

**淋病**

十二指 腸虫病

**門專**

**院醫科**

七〇一話電

町南平 **村松**

**看護婦急派**

の求めに應

じます

平町南町

**平看護婦會**

電話三〇七番

**大塚の 學生靴!!!**

耐久新製品

編上靴 六〇〇

半靴 五〇〇

不安心なるキカイ靴より、安心得る弊店の靴を……

**大塚支製靴部**

電話七七番

**簡易食堂の新設**

**石川亭**

田町 電話四三番

各室の改築と

- ▲牛鍋 一枚三十錢
- ▲御飯 一人前七錢
- ▲上酒 一本三十錢

簡單且經濟的に御食事なさるお方には最も便利で御座います何卒御利用下さい尚本日より二十三日迄中豚肉一割引

**外科 X 光線科**

**性病科**

**外科科**

平町田町

**安齊外科醫院**

電話四七五番

入院隨意

**安……賣**

舶來生地メニスカス近眼玉 一組 一圓拾錢

優等品白生地栗山近眼玉 一組 六十錢

新メニ玉ストロシ 各二組 四十錢

白イロメガネ 各二組 四十錢

五令番と廿五番セル卷淵 三十五錢ヨリ

クローム製淵 三十錢

理想のメガネ正十八金セル卷 玉入 八圓四十錢

大形絹天張眼鏡入サツク 十二錢

**精幸堂時計店**

向店車動自チクキ路小槌才